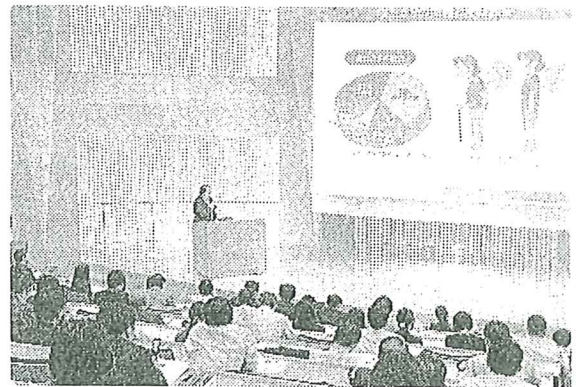


卵黄を活用し 病気予防探る

西京で研究会

鶏卵の研究応用やビジネス化を考える「たまご研究会」が15日、京都市西京区の京都大桂キャンパスで開かれた。卵黄を活用した骨粗しょう症予防の研究などが発表された。写真。

研究会は、機能性食品開発のファーマーズや京都女子大などが毎年企画しており7回目。研究者や食品会社の社員ら約280人が



参加した。

松下記念病院(大阪府守口市)の山根哲郎院長は、卵黄由来のペプチド「ボーンペップ」を使った研究を報告した。40〜60歳の女性70人を対象に試験を行い、ボーンペップ

摂取によって骨密度の低下が抑制されたと説明。「ボーンペップは、カルシウムやビタミンでは補いきれない骨の変化を改善し、骨粗しょう症の進行の予防に有用」と強調した。また、中部大の小川宣子教授は「触感」に焦点を当て、おいしい厚焼き卵の作り方を追究し、「産卵2日目の卵を調味料が混じる程度にかき回し、強火で短時間で焼き上げるのが良い」と紹介した。

(大西保彦)